

【地域活性化に向けての取り組みと二次交通の整備について】

G： 私は大阪の出身で、今から10年前に四万十川とカヌーに魅せられて西土佐にIターンしてきました。そのあと商工会にお世話になって、会員さんの手伝いをしたり、一緒に地域のことを考えたりしながらいろいろ勉強させていただいているところです。

私たちは四万十市の西土佐地域を「奥四万十」と名付けてPRしています。なぜ、「奥四万十」と名付けたかと言うと、まず、西土佐地域は高知市内から（の所要時間が）2時間半、松山からは2時間、窪川や宇和島、中村からでも40分～1時間かかるという地理的に奥まったところにあります。また、ガイドブックやパンフレットに載っていない奥の深い四万十を知ってもらいたい、楽しんでもらいたいということで、「奥四万十楽（たの）しまんと」というキャッチコピーをつくりました。

今日は中小企業庁の補助事業である、「全国展開プロジェクト（小規模事業者新事業全国展開支援事業）」を活用して平成21年度、22年度と商工会が取り組んできた活動についてお話させていただきます。平成21年度は、かつて西土佐地域で300トンを超える収穫があったという四万十栗にスポットを当てた「四万十栗再生プロジェクト」に取り組みました。西土佐地域の栗を全国のお菓子屋さんを買っていただくことで、地域にお金の流れを作って、地域を潤そうというものです。取り組んだ理由の一つは、四万十川にあります。最後の清流と言われる四万十川ですが、年々汚染が進んでいると言われていています。その原因として私たちが注目しているのが、手入れのされなくなった山です。地域の大切な資源を守るため、私たちが栗を植えに山に入って山を守ることが、四万十川を清流のまま未来へ引き継ぐことにつながると思って取り組んでいます。

このプロジェクトに賛同する地元の有志が出資して設立されたのが株式会社「しまんと美野里」です。昨年度、県の「産業振興推進総合支援事業補助金」を導入して、栗の加工設備を整備しました。現在、全国に向けて販路開拓を進めているところです。

次に、平成22年度は「奥四万十楽（たの）しまんとプロジェクト」ということで、西土佐が誇る地域のA級素材を使った「奥四万十A級ご当地グルメ選手権！レシコンテスト」を開催し、全国からいただいた約70点の応募の中から、「ウナギとシイタケのタタキ」がグランプリを獲得しました。現在、他のメニューと合わせて、地域内の10店舗でメニュー化されています。また、観光面では、四万十川火振り体験、まち歩き、星空観測や観光ガイドの育成にも取り組んでいます。

課題は、情報発信力の弱さと、高知龍馬空港、松山空港から西土佐までの二次交通の整備です。大阪や東京を朝出発しても、西土佐に到着するのが夕方ということも珍しくありません。これからの観光振興を考えていく上で、空港から四万十市までのシャトルバスや乗り合いタクシー、レンタカーの乗り捨て料金の免除など、県や市町村と航空会社、民間の会社との連携で実現できないかと思っています。

また、旅行会社のパッケージツアーに、大阪－高知や東京－松山というパックまではあるんですが、四万十市までのパックがないので、二次交通の整備にも関係することですが、

前向きに進めていただきたいと思います。

最後に、平成23年度の西土佐地域での取り組みとして、フラットな地形を活用して、自転車の利用を促進していきたいという話が出ています。四国を自転車のメッカにというイベント「コグウェイ四国」がスタートしたようですが、私たちの地域も、アドバイザーをお招きして、サイクリングのコース作り等にも取り組む計画をしておりますので、是非、仲間に入れていただきたいと思います。

知事： いろいろご指摘いただいて、ありがとうございます。

まず、「コグウェイ四国」は、徹底して取り組んでいきます。私も自転車に乗って参加しますが、観光庁長官も来ますので。サイクリストの皆さんに見てもらおうと、四万十川流域というのは、最高のコースだそうです。今回「コグウェイ四国」で走るコースは、四万十川流域を重視した形で組んでくれています。是非、毎年続いていくイベントにしていきたいと思っていますので、一緒に頑張っていきましょう。

次に、旅行会社のパッケージツアーに四万十市までのパックがないというお話は、大きな課題だろうと思っています。ただ、少し趣も変わってきていると思います。JR四国、JR西日本が今夏の重点送客キャンペーンで、四万十、足摺をキャンペーンの対象にしています。JR四国が幡多地域を選ぶことは今までもありましたが、JR西日本と一緒にやってくれるということは、劇的に規模が大きくなってきますので、そういう形でだんだん注目はしてくれるようになってきたんだと思います。

そこでもう一段踏み込んで、(幡多地域、さらには高知県で) ゆっくり滞在していただくようにすることが非常に重要だと思います。ただ、やっぱり最初に来るお客さんはメジャーな観光地に行こうと思うじゃないですか。その中で、滞在時間の長い商品をどう作っていくかが課題でしょう。今、観光振興の中で、(東部・中部・西部と) 高知県を3ブロックに分けて、各ブロックで少なくとも、1泊してくれるような取り組みを進めています。「志国高知 龍馬ふるさと博」なども高知駅前にパビリオンを建てて、イベントを行っていますが、基本的には「ふるさと博」に連携してもらっているのは、大多数が既存の取り組みなんです。その地域地域の観光資源を、「ふるさと博」の期間を通じて磨き上げを行って、来年からしっかりと観光商品になるようにお互い伸び上げていこうというのが「ふるさと博」の一番の大きな目的だと思っています。

また、パッケージツアーにするためには、4定条件(定時・定量・定品質・定価格)が満たされていないといけません。さらに、情報発信力の話もありましたが、県内各地いろいろなところが必死になってモニターツアーの受け入れや、県外に出て売り込みなどされています。是非、四万十の皆さんにもたくさん参加いただければと思っています。

G：私たちの地域は、どうしても受け入れるキャパが小さいこともあるので、モニターツアーをきっかけに、一度来ていただいた方により濃い交流、つながり体験をしていただく

ことで、また来てもらえる、その人の口コミ、ブログ等でPR発信をしてもらえる、そういうお客さんの呼び方をしていきたいと思っています。

知事：是非、観光の売り込みの機会を作っていますので、活用いただければと思います。例えば、県の観光コンベンション協会や、各地区の観光協会の皆さんと一緒に、一般の人やマスコミ向けのPRをしたり、地域の旅行会社に行って、それぞれの地域の売り込みを図っています。こういう形で、売り込みを全国的に図って、1個1個、個別に売り込みをかけていくというのは非常に重要だと思うんです。

残念ながら、そういう取り組みに参加してくださる地域と、あまり参加してくれない地域もありますが、四万十の皆さんは日本のなかでも持っておられる資源そのものでいけばエース級だと思いますから、是非、幡多地域の皆さんも参加していただければと思います。また、ご紹介させていただきます。